



桃の首金  
子

5  
4112  
3



本館  
手  
書  
下

利5  
4112  
2-3

利  
4112  
3-3



石動

短歌行

方登

麻の世活くもわくは後の事か子に  
 爪僅にさへて 雲外袖垣里の  
 月のさるるふお脚しへて 塵徒  
 歸らるるしほくしゆいさるやら 史箇  
 いふほおふくくくくくくくくくく 可者  
 まのちりりのちもゆめゆめ 眉永

後宮の供よへ赤いぬらし之  
 懐よにけりて合ちあきふ  
 乾鯉の老良生嘗よと年そらて  
 山のけふのれが辨 友 徒  
 吹ふらふと老良生嘗よの徒 泉  
 二 秋よ抱よとつきと新子  
 眩ふとつきとつきのあきふ  
 祖父掃のけりてあきと老良  
 ぬ 登 首

伽羅木の月とつきの徒のあき 妙 徒  
 きとつきの徒のあきとつきの  
 けりてはけりてつきの徒のあき 首  
 馬つとつきてけりてつきの徒のあき 泉  
 橋つとつきてけりてつきの徒のあき 登  
 けりてはけりてつきの徒のあき 首  
 首

小斎園よむのこまの真ん中  
ゆゑにゆゑにゆゑにゆゑに  
徒

名録

まじやうの八相のふり  
あふふふふふふふふふ  
楳川の楳川  
楳川  
楳川

新編の中へ裸てふ  
家々々々々々々々々々々々  
そのれれれれれれれれれ  
法術よるるるるるるるる  
方登

安后

海と研まきりな月  
念のふふふふふふふふ  
石

初花

ち風のうきうきちうりなつ月巴歌  
 ころ月のふゆと桜やのり茶飲之  
 顔ちりの月ぬしつやまほま 鳥書  
 風や鼻てはさるる物豆汁 汐文  
 絶きの襟わたる菖のハ日ふ乙谷  
 ここのふさささささ 卯菊山 九言

蝶偶

ちまきの神ころ拂ふ屋むま 吾秋  
 ささののりささささ ぬじ柳ふ 佳夕  
 ささささささささささ 草ふま 以中  
 入口とさささささ 猫も火煙ふ 鳥射  
 さささささとさささささ 庭之  
 名月や春夜ささささ 上 雨吹

七女の肩よりしるし一花のむき  
 雲のさかすかにて水と  
 新玉のしらと下中や又三十日  
 なるおのほかすしるし今おの  
 花の塔下草りしるしや  
 雲前しるしと信人の影ふ  
 其の

井波

七草や四よりまきとふの  
 二草より買おれや  
 草のさかすかにてしるしの  
 桃化  
 萩  
 萩

富士 短歌行

妙ふよの里の徳やみま  
 法座よりしるしと菊の十はを  
 叔向の中よ石の月とて  
 侍

三河

7  
 沈まの海をまへ通ちから  
 赤石とせむかき宮をらり  
 海に控へてにまじ 竹垣 川  
 日やけしるるもよそとわとい  
 あー海の人さしは傍 菊  
 朝日とあふれしあはるるあき  
 本意あきくし 穂やあ  
 美とあきあきのあきの言 川

二

被けらるる 雛の妹入 五  
 いちもあはれあはれ ねん好 着  
 いこそ中へ 位牌こへ 糸 帯  
 漏しつ 寄仲 氣をよ 海切 子  
 書しおとせしあはれ 川  
 気管もよこす味 糸 帯  
 抱 抱 抱 抱 抱 抱 抱 抱  
 千本の迷はるる 糸の月 帯



自憎ふ山を慕ふも 柳岸  
 野守よ紅花も 依見え 川  
 花もあつて びくぬ 霞人  
 びくぬて もも 柳花 墨火 燈  
 柳葉 柳葉の 暮も 裁許 常

同前 短歌

お依ふや 菊も ちまも 市の中  
 深下と 柳も ちまも 里の  
 又長徳の かな月 入も 柳下  
 花の 掃除よ 川 柳 交橋  
 入聲の 原も 春柳 柳 白推  
 お手紙の 柳も 春柳 庫  
 春焼く 園が 裏も 柳と 柳  
 柳の 柳も 柳日 暮る 柳

中へくし十ねまゝなるまじりて  
 抄てふとふてぬり集まふ  
 若代とよよむの西竹田  
 心慮するのしほくくしと  
 教入よ多ふてやう池をさう  
 一合ふりりや他母分  
 撰蔵しふうよ床裡の糸をゆ  
 湯殿とめてるらり何月  
 信 西 信 西 信 西 信 西

大なるし備中の名ときこり  
 概とくじぬ糸母り襟  
 此藥地の切をねなるよそもの月  
 いふとくしにほくくしと  
 ねまゝなる母親の糸の連なり  
 ねまゝなる又言とくし  
 ねまゝなるおちたる秋よとくし  
 ねのくしとくしの炭せんよ  
 信 西 信 西 信 西 信 西

名録

ねう軍のふしむらやあまれ川 白推  
 ちのふしむらやあまれ川 脈月 卜道  
 金ねも脈ふしむらやあまれ川 一室  
 夕さにもさむらやあまれ川 父介  
 午のふしむらやあまれ川 一酒  
 ちのふしむらやあまれ川 一酒

鯖鈴のふしむらやあまれ川 侍着  
 ちのふしむらやあまれ川 湖中  
 さのふしむらやあまれ川 其園  
 層のふしむらやあまれ川 巴丘  
 子とほれむらやあまれ川 二木  
 有風とてふしむらやあまれ川 故白  
 ちのふしむらやあまれ川 故白

二階のつらさの中を  
 夢の如く歩いた  
 信実のなまじり  
 山石のまじり  
 いと嘆いて  
 二川

備前 短歌

山石のまじり  
 いと嘆いて  
 二階のつらさの中を  
 夢の如く歩いた  
 信実のなまじり  
 山石のまじり  
 いと嘆いて  
 二川

排

排



名録

確のふしむる心ありむ無うふ 野雲  
けり杖の懐くをわ 神味もふ 知十  
あふまにそわくあはれやちまを 曙窓  
ふるふるの月くらしきをちやほの月 魯は  
赤壁よつちやむいりの雲じ 指山  
あふまにそわくあはれやちまを 保水

もむも木とれはあふふふふふ 鳥南  
ふふふふ杖の姿やきくはく 紋呂

魚津 短歌行

けり杖のさかへきむれくしきふふ 倚着  
夕日の傍と横くしうね 里お  
初鮭と味下へ月の布きく 巴周

排下 十一

ウ

あつらふし 伯父と氣まは 徒意

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 柳雨

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 固秋

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 火以

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 山省

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 季布

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 雀洞

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 明云

ニ

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 貞子

あまの髪とあまの髪と 結おくれ ね

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 元

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 志

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 圃

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 秋

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 雨

あまの髪とあまの髪と 結おくれ 省

あひしとさへらへらへら  
 清くやぶき十神のしんちん  
 こさしとらへらへらへら  
 町のくまへらへらへら  
 様へらへらへらへらへら

同利 短きし

きしとさへらへらへらへら  
 柳咲かへらへらへらへら  
 ニねのふらへらへらへらへら  
 似とけさへらへらへらへら  
 漸とけさへらへらへらへら  
 貼りやへらへらへらへらへら  
 風の廣いへらへらへらへら  
 なるるへらへらへらへらへら

両打  
 里  
 方  
 拾  
 餅  
 意  
 禮  
 簪



鏡の光とよゆかき餅の更飯や素竹  
 木島山今の春の念は耳に  
 るものある心はせむかきし  
 昔は後娘のふらふら氏并  
 二  
 もの葉よもみかきし  
 遠くくくくくくくくくく  
 掃除くくくくくくくくく  
 僕とくくくくくくくくく  
 一  
 杖

けふもくくくくくくくくく  
 山美分のあけくくくくく  
 美山の精くくくくくくくく  
 多色くくくくくくくくく  
 如くくくくくくくくくくく  
 市のもくくくくくくくくく  
 備くくくくくくくくくく  
 ちり離くくくくくくくく  
 令屏  
 一  
 杖

名録

浮きとひしきさるるからしき  
 長所やあつれちるさ地養柳雨  
 念仏のあつち中へ素山子  
 父をやはらまきなる砂の上  
 養之し中卦よかふるあつ山子  
 張人しきほまうし柳子  
 備去  
 巴周  
 山省  
 崔洞  
 固性

梅のまき  
 入たのしき  
 海のしき  
 鶴のしき  
 雲のしき  
 子のあつち  
 山吹やあつち  
 梅のまき  
 備去  
 細長  
 女  
 魚味  
 赤布  
 方敷  
 強味  
 素竹

さつり国とあはれぬうらりうさ耳に  
たよふもりもあはれぬうらりうさ  
いけいんてんてんてんてんてんてん  
引算よめりもあはれぬうらりうさ  
うらりうさあはれぬうらりうさ  
十六おのうらりうさあはれぬうらりうさ  
精よめりもあはれぬうらりうさ  
あはれぬうらりうさあはれぬうらりうさ

生地 短哥行

たよふもりもあはれぬうらりうさ  
いけいんてんてんてんてんてんてん  
あはれぬうらりうさあはれぬうらりうさ  
あはれぬうらりうさあはれぬうらりうさ  
あはれぬうらりうさあはれぬうらりうさ

排

下

下京よりありありのありから  
 脈々たるまじりたるやうに  
 入居るのふれ母なるありか  
 さらばなまの膳ちりきり  
 小節よりいへばこの国は  
 さい方の繁華ありて  
 又年々のまじりたるあり  
 細かくして見るに  
 中

はつと柔らかなるありて  
 張るはひりすふまの松中  
 地蔵の待をききしやち  
 橋のまじりたるありて  
 一口村として月入む  
 お撲屋の跡もなき  
 あらゆる業はくさるあり  
 氷

ももじよあれあつゝあけ中  
穂を初ふりの 苗代 又

名録

もも中 釣わく つかさろ 子く 鹿之  
きりりもも あつあつ 子のかい 鹿  
あつあつ 子のかい 鹿の 羽 枝中

もも中 釣わく つかさろ 子く 鹿之

白 短音り

松字

もも中 釣わく つかさろ 子く 鹿之  
穂もも 穂もも 穂の 穂もも 穂もも  
穂もも 穂もも 穂もも 穂もも 穂もも  
穂もも 穂もも 穂もも 穂もも 穂もも  
穂もも 穂もも 穂もも 穂もも 穂もも

暮あらしきついで月の新き 五條

内系にまらるるまきの急も 曾六

水原よきとて庭玉 鴻羽

こころのあふくまぬ法談 周路

今宵の待いは秋のまを 渭水

菊は合とかくり ぬ母 素林

もの碎はちりしもよ 野ありさ 伴下

心あはれもの根よ 心もあれ 河原

妻買とらうるまのけのまふり 下

れまぬまをいへ何とせんや 宇

まへの入院もまよふあまね 情

心のせよ大工 中林 河 今

川町の史口あまのり 車 古

けまの竹もあまのり 志あま 株

夕月も月病まらりい 日まら 管 玲

心まに木の葉あまのり 心 ね

下

下

ウ

勢好とくも念者の下こつ何  
松島とくも名のきこみくも  
町並とくもわくむの西を東  
柳の隣とくもほしるやく丁

名録

えおのわいよふあろ 葉山子子子 松守

鳴ぬりく尾しほきりぬ 柳 子 五梅  
クノルや髪 路もくもあつり之 周路  
よちくもろ 髪おるやぬのじ 曾云  
いふ葉のきんさるうねの月 素林  
十たぬや 桂おともみんくも 杵丁  
河内よ葉とくもしとくも葉の 鳥与  
大沼川 尾ねや 帆のあつらふらぬ 河涼  
掛る屋とくもくもくも 龍とくも綱の 甚佳

世

世

柳下

新うゝ国庭へうゝくさき森に 渭水  
茶のいと焙がよきるあひに 洗耳  
磯徳よ信のいとくわきふ 胡江  
十月の小店おきや 梅のいと 楚且  
と娘のよれはゆや大根川 鴻羽  
おきや 根の化核いし 雲のた 其柏

越後

東魚川 短哥行

九餅

けー王のさきさきはねきり大根川  
さきよ日暮のししりりり花 里お  
掛あきり 鳴きりりりり 橋ゆりり 佐盛  
市のあきりのいほよよいほ 宇お  
柳の本の下きききき月の新 菟陽  
春の踊のあききき ち 卜荒

柳下

世三



柳下はあはれあはれ坊主の義方  
 著書の記述は凡品と云ふも  
 煉のふし新編いさふるにけり 葉千  
 知子の様は 拙七書にける 文章  
 ことごとく入障り 拙子にけり  
 ことごとくいさふよかとい 誦  
 拙子の言はれし事はお深下 荒  
 ことごとくいさふよかとい 誦

柳下の言はれし事はお深下 荒  
 ことごとくいさふよかとい 誦  
 拙子の言はれし事はお深下 荒  
 ことごとくいさふよかとい 誦  
 拙子の言はれし事はお深下 荒  
 ことごとくいさふよかとい 誦  
 拙子の言はれし事はお深下 荒  
 ことごとくいさふよかとい 誦

ひよものねあてしやもの中 陽  
山のさきのゆかりねし 花

名録

まのまよいとにきくまふ女房は 九轉  
風のしりかきし 柳ふ 巻陽  
振近る風まふまふ 松衣ふ 佐藍

一河のさししやふや 雲 隠 宇ふ  
頃深のまふしやまふし 松 里の  
まふのまふしやまふし 松 下  
桃系つ二交のまふし 松 義方  
ほほくまふし 松 一の月 文章

諸国遠近 文通部

洛陽

けり女の子よあり菊のむ 吾仲  
 連翹もすもていと嘆よる 危字  
 娘もていづる菊れ見れふ 山只  
 柳下ていづる菊の月もふ 未六

近江

草麻のあけらのもやとみ月 腰下 酒堂  
 枝もやわやわのり 昌房  
 十二之は 大伴 幸抱  
 菊入のぬの 山只 田入

但馬

一葉も 山口 仙飲  
 名のもれふ 吾仲

石見

夕陽のまじりて浮き しまれ 草大田  
あはる人あはてゆく 田植ふ 和比  
稼等ふ 風はれき 廣らふ 考天

仔細

夕涼の夕歌のしる 又付ら大田 乙中  
あはれむ 何の次ふ 柳 草上  
じつと 十まよふ あり 柿の籠 柳如  
さくらあふと なる 花 小葉

山の清平 静し きの 花被  
あはれむ 一まよふ 給ふ 女名 午御  
一まよふ 花よふ ちり 雲山  
あはれむ のち 難知ふ 風ふ 何有  
あはれむ ちあはれ 菊の 花ふ 潜柳  
さきし 春の きり 山 仙行  
あはれむ ちあはれ 花ふ 嵐角  
あはれむ 春の 花ふ 柳 秋末

二三

又ふくねのききこころのけふも 名取 里乙

風の中も ちかぬ ちかぬ と 春 春里

尾張

名月やぬのぬのい 名取 巴橋

よる後た一ひき 名取 三徑

世のふくよのぬや 名取 丁物

様うら 名取 巴橋

雪ふくし 名取 月おの 扉 扉

いふ一の口 名取 柳 以之

けりしきや 名取 甲太 指の 比治

おききよ 名取 姑の 伊達 ちね 美土

美濃

春風や 名取 戸さくく 春の 青 角呂

津風の 名取 ちかぬ 春の 月 凍之

春風や 名取 ちかぬ 春の 枝 佐柳

あつらふ人あつらふ人のさ  
 うほも合せたるの 氷う柳 燕河 後角  
 生枝よりやあつらふさ  
 春のむらや柳原よりあつらふ川 松支  
 山崎下よさるのうれ 里 本調  
 うら月のひらひらあつらふ  
 中津川 春之  
 苗代や親にふさふさ 合之  
 さるるよまほと歌く 後角 松北

人さるるあつらふ人のさ  
 さるるよまほと歌く 三田 <sup>大臣</sup>  
 清くあつらふさるる 松の白 鯉水  
 あつらふのさるるあつらふ 又裏  
 さるる月のひらひらあつらふ 伴字  
 さるるあつらふさるるあつらふ 柳昔  
 さるるあつらふさるるあつらふ 春李  
 さるるあつらふさるるあつらふ 借父

しつりし舞の侍し 杉うねの 浦柳

越後

まじりし中よりあはれりし 鏡磨 意行

暮人のあはれおくる 庭 意行

おまのあはれおくる 日のよみ 意行

あはれおくる 柳子のあはれ 意行

雛の目よとて戸のしや 白塚 意行

若人の胞衣より 遠のよみ 意行

あはれおくる 出美く 意行 月ね 小河

七羽

麻のあはれ 帯に 意行 梅の意 意行

花虫のあはれ 意行 意行 意行

あはれおくる 意行 意行 意行

あはれおくる 意行 意行 意行

あはれおくる 意行 意行 意行

あはれおくる 意行 意行 意行

まじりのまじりやぬもまじり田村 十知

又通近加部

お木の垢を紙やらり一葉 血江村 九角

まのれりし 節りち 垢子のとま 濃遠志庵 除は

町(ま)てれりち吹き 伊勢四市 玉之

船牛角ちりくちる 越前金澤 江西

まのりし 表農田 水尺

本松のほねりま 表農田 松寸

くはくはれとま 同神戸 本子伝

まのりし 同新加納 與之条

鶏も首 同三橋 摺川

二子 同西舞 袖月

ふ 同 水也

織物 同僧 湖舟

ま 信濃善寺 未格



その脈より

小澤山  
遊魚

薫くく

義農伴尾  
越水

し

同  
洞極

ゆ

同  
足己

鳴

同  
梅云

夕

同  
雪布

世

尾羽上屋  
馬六

大

同  
常和

山

越後高田  
巻耳

ま

同  
貞虎

秋

加賀冬  
山隣

享保成  
申子丑亥未土吉日

京寺町二条

橋本信長衛板

帰心堂

何屋亭秋立

庭の樹と秋ても暮布にさす汁 音平

夕の柳もさす秋 禮 里紅

ひかりと化粧の山目さす 白程



